



プレーボール！2002年
The New Atoms' Bombshell(1980) ロバート・ブラウン(広瀬順弘訳) 早川書房(文庫)
(12/15刊・¥360)

野球は確率のスポーツである、しかし……。二十一世紀、シカゴ・アトムズは、人気実力共に低迷していた。大学助教授のバラダイスは、ふとした偶然から、球団のオーナーを引き受けるハメに陥る。それには、彼自身が、先発投手として四試合に一度登板するとうい、とんでもない条件が付いていた。相談相手であるノーバート博士は、全員がコンピュータの命令に従う、完全管理野球を、解決策に提示したが……。

斜陽化したアメリカ野球、管理化の裏で影を潜める豪快さ——その中に、アメリカ自体の病いの反映を見るのはたやすい。けれども、本書は、こむずかしさを無視して、ロスの『素晴らしきアメリカ野球』辺りと比べても、とにかくひたすら軽い。実は、そこがいいのだ。代打の女性選手、日本人の強打者、外野の元音楽家と、元精神病患者——人物は(この手の話の定石通り)魅力的。ちょっと前半、コンピュータ野球の説明に手間どるものの、ストーリーの濃みはほとんどない。結末も予想通りながら、小気味よいものだ。

著者は、キリンシーグラムの回し者ではない。発表当時、かなり話題を呼んだ本。(俊)